

# 2017年業界関係団体代表年頭所感

(一財)全日本交通安全協会  
二輪車安全運転推進委員会

委員長 大山 憲司



あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素は、二輪車安全運転推進委員会の活動にご理解とご支援を賜りますとともに、それぞれの地域、職域におきまして二輪車の安全運転教育の推進にご尽力を頂いており、深く感謝を申し上げます。

さて、昨年の全国の交通事故死者数は前年より213人少ない3904人(前年比5.2%減)でした。

また、負傷者数は61万7931人(概数)で、2005年から12年連続で減少しました。

り、不安要因になっている現状に変わりありません。二輪車情勢につきましては、死者数は昨年11月末現在684人(原付車212人、自二車472人)で、前年に比べ22人増加しております。全死者数の18.2%を占めております。原付車では依然として高齢者が44%を占め、自二車では中高年が若年層を上回る全体の40%を占めております。これらの背景には高齢化の進展やライダーの増加等があることから、これらの特徴を捉えた防止対策が喫緊の課題であります。

この状況を踏まえ、二輪車安全運転推進委員会としては、二輪車の交通安全防止を図るといふ共通の理念の下、次の2点を今年度の重点として取り組んでまいりたいと存じます。

その1は、二輪車安全運転講習の積極的推進であります。道路交通環境の整備が進み、安全運転支援システムなどの先進的な安全装備の整備が普及しても、最終的に安全の鍵を握るのは人間であり、交通事故防止

のためには、運転者に対する交通安全教育が極めて重要であります。二輪車安全運転推進委員会における指導員制度は、正にこの交通安全教育のた

めのものであります。指導員の方々が、それぞれの地域、職域の各種講習会等において、二輪ライダーのリーダーとして、率先して二輪車の交通安全防止に関する知識、技能の普及や安全意識の啓発を行っていただくことは、安全で快適な交通社会の実現に直結するものであります。

本年も知識、技能、指導力に優れた特別指導員の育成と、各地域での指導員講習の支援、講習内容の検討等を的確に行い、警察の指導や日本二輪車普及安全協会など関係機関・団体の協力を頂き、二輪車の安全運転講習の積極的推進を図ってまいりたいと考えております。

その2は、二輪車安全運転全国大会の活性化であります。二輪車安全運転全国大会は、今年記念すべき50回目を迎えます。これは、一般の二輪ライダーが安全運転技能を競う大会として、昭和43年10月に東京都府中市にありま

でも初めての大会として開催され、現在に至っております。その規模や技能レベルは、民間の大会では最大かつ最高のものであり、二輪車の安全運転技能の向上と交通事故防止に大きく貢献してきたものと自負しております。

しかしながら、近年、大会参加者の減少傾向が続いていることが懸念されております。本年は昨年以上に、日本二輪車普及安全協会、日本自動車工業会、関係機関・団体との連携を更に強化し、ポスター、チラシ、ホームページ等による広報活動を積極的に行うなどして、都道府県大会への参加者を増やしていきたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

新しい年を迎え、平素交通安全活動にご尽力頂いている皆様のご多幸を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

(傍線はSDAが引いた)